

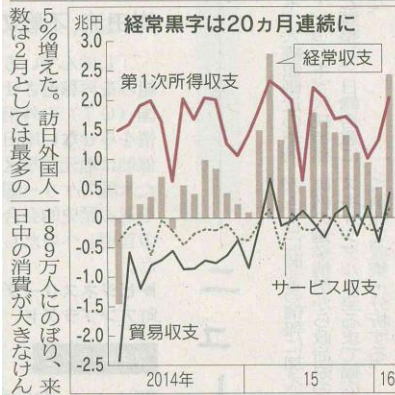
経常黒字2月63%増

2.4兆円、訪日需要けん引

財務省が8日発表した2月の国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引を表す経常収支は2兆4349億円の黒字だった。黒字は20カ月連続で、金額は前年同月に比べ63%増えた。訪日外国人の増加などでサービス収支が伸びた。原油安で輸入額が減り、貿易収支が2カ月ぶりに黒字になったことも経常黒字を押し上げた。

経常黒字は2月として、リーマン危機前の2008年2月(2兆4790億円)以来の高水準だった。拡大した理由の一つは、1996年以降と

しては最高になったサービス黒字だ。外国人が日本で使ったお金の大きさを表す旅行収支は1238億円の黒字と、2月と



2月の国際収支
(単位: 億円、カッコ内は前年同月比%)

▽経常収支	24,349 (63.7)
貿易・サービス収支	5,846
貿易収支	4,252
輸出	56,431 (▲5.5)
輸入	52,179 (▲14.6)
サービス収支	1,595
旅行収支	1,238
知的財産権等使用料	3,356
第1次所得収支	20,451
第2次所得収支	▲1,948
▽資本移転等収支	▲147
▽金融収支	31,667
▽誤差脱漏	7,465

引役となつて、企業は海外から受け取る特許料や著作権料などの使用料も3356億円

の黒字で2月として最も多かった。ゲーム関連の収入が多かった。

貿易収支も4252億円の黒字となった。輸入額は5兆2179億円で前年同月から14.6%減った。財務省によると、原油価格は前年同月よりおよそ4割低く、輸入代金が減った。輸出額は5兆6431億円で5.5%減少したが、輸入額の減りのほうが大きかったため、収支が改善した。

企業の海外子会社から受け取った配当金などを含む第1次所得収支は2兆451億円の黒字。黒字額は10.2%増えた。今後の見通しについて、SMBC日興証券の宮前耕也シニアエコノミストは「原油価格上昇や円高で短期的に経常黒字は縮小する」とみている。